



ひょうごフィールドパビリオン

Our Field, Our SDGs
私たちのフィールド、私たちのSDGs



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
DRI The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

We won't forget ~1.17は忘れない~

1995.1.17



阪神・淡路大震災の経験と教訓、防災・減災・



人と防災未来センター長

河田 恵昭

世界は今、災害多発・激化時代のさ中であって、減災社会(Resilient Society)の実現のために何をなすべきかが問われています。その一つの答えがこの「人と防災未来センター」です。当センターは国のご支援を得て2002年(平成14年)4月に兵庫県が設置した施設です。阪神・淡路大震災とその後発生した国内外の災害の経験と教訓の継承、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援及び創造的な復興を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することをミッションとしています。当センターは、災害ミュージアムとして、阪神・淡路大震災で起こったことなどをだれにもわかりやすく伝えるとともに、実践的な防災研究や防災人材育成を推進しています。さらに、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)2015-30」やコロナパンデミックを踏まえ、世界的な防災・減災・縮災の情報発信やネットワークの拠点として活動しています。開設20周年(2022年)を契機として、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの国難災害共同研究や国内外の防災教育に貢献する「防災100年えほんプロジェクト」を推進します。

人と防災未来センター6つの機能



縮災の大切さを21世紀と世界に発信

● 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

減災社会の実現に向けて、実践的研究で防災力向上に貢献します。

研究分野

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| ① 災害対策行政対応 | ③ 救命・救急対応 | ⑦ ボランティア対応 |
| ② 応急避難対応 | ④ 二次災害対応 | ⑧ インフラ対応 |
| | ⑤ 資源動員対応 | ⑨ 被災者支援対応 |
| | ⑥ 情報対応 | ⑩ 地域経済対応 |



重点研究領域

今後30年程度を展望しつつ、当面の社会状況、センターのミッション、社会的要請を踏まえ、5年間程度継続的かつ組織的にセンターが取り組むべき防災研究上の重点的な領域を「重点研究領域」として明示しています。

- ① 災害初動期における人的・社会的対応の最適化
- ② 広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- ③ 地域社会の復旧・復興戦略の構築

中核的研究プロジェクト

「重点研究領域」について、センターが組織として取り組む中核的研究では、予想される巨大災害に備えて自治体等が備えておくべき課題や論点をテーマに、一定期間継続して研究を推進します。

特定研究プロジェクト

「重点研究領域」をさらに掘り下げるものやその周辺部分の開発など、特定の研究テーマに柔軟かつ機動的に取り組む「特定研究プロジェクト」を設定し、複数またはすべての研究員からなるチームが期間を限定して取り組みます。

研究員の育成

大学院・博士課程修了者等を研究員（常勤）として3～5年任期で採用。上級研究員の指導の下、実践的な防災研究に携わるとともにセンター各事業に参画し、実践的な防災専門家として育成します。



■ 上級研究員

武田 文男 政策研究大学院大学防災・危機管理コースディレクター 福島学院大学副学長	山崎 登 国土館大学防災・救急救助総合研究所教授
目黒 公郎 東京大学大学院情報学環学環長・学際情報学府学府長	田村 圭子 新潟大学危機管理本部危機管理センター教授
高鳥毛敏雄 関西大学社会安全学部社会安全研究科教授	越山 健治 関西大学社会安全学部教授
中北 英一 京都大学副理事・防災研究所教授	廣井 悠 東京大学先端科学技術研究センター教授
渡辺 研司 名古屋工業大学大学院社会工学専攻教授	

■ 研究員

林田 怜菜 〈主任研究員〉 [専門分野] 災害時自治体復旧活動の研究、 震災資料の保存と分析	松村 圭悟 〈研究員〉 [専門分野] 災害対策法制
山崎 真梨子 〈研究員〉 [専門分野] 災害時要配慮者支援、 被災者支援、防災と福祉の連携	南 貴久 〈研究員〉 [専門分野] 避難行動、都市防災、 地域づくり、防災と学び
山口 章子 〈研究員〉 [専門分野] 気象災害、防災情報の伝え方	餅原 秀希 〈研究員〉 [専門分野] 社会福祉、障害者福祉、対人援助、障害者 者のWell - Being向上、障害者芸術活動
池端 祐一朗 〈研究員〉 [専門分野] 哲学・倫理学、公共政策論、 防災行政、救助者と倫理	杉原 優太 〈研究調査員〉 [専門分野] 防災行政、土木行政（鳥取県から派遣）

西館

4F 震災追体験フロア

1 1.17シアター

〔上映時間7分〕
阪神・淡路大震災の地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体感します。



2 震災直後のまち

震災直後のまち並みをジオラマ模型でリアルに再現しています。



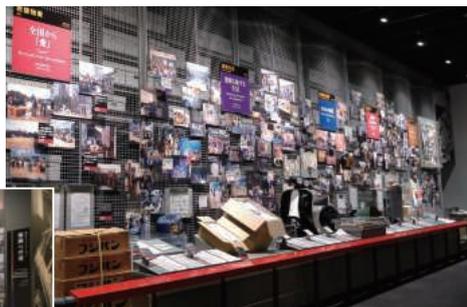
3 大震災ホール 〔上映時間15分〕

復興に至るまでのまちと人を、直面する課題とともにドラマで紹介します。

3F 震災の記憶フロア

4 震災の記憶を残すコーナー

震災関係資料を提供者の体験談と共に展示しています。



5 震災からの復興をたどるコーナー

地震直後や復興過程の生活・まちの姿をメッセージとグラフィックで解説します。

6 震災を語り継ぐコーナー

ビデオで震災体験を紹介したり、「語り部」が自らの体験を語ります。



2F 防災・減災体験フロア



7 災害情報ステーション

世界で発生した自然災害を学習します。

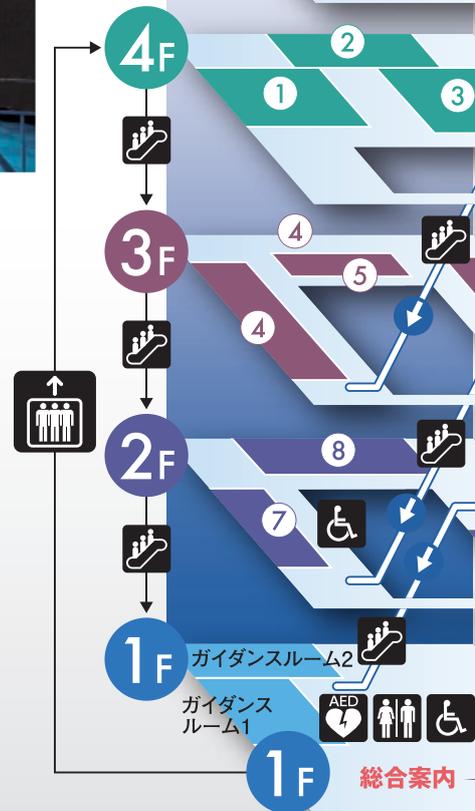
8 防災・減災ワークショップ

実験やゲームを通して、防災・減災に関する実践的な知識を学習します。



9 防災未来ギャラリー

防災・減災に関するさまざまな企画展を開催します。



※館内は、ボランティア、アテンダントがご案内します。

資料室 西館無料ゾーン 〔資料閲覧・防災学習〕

■開室時間 9:30～17:30

■閉室日 休館日及び年末年始

※有料ゾーンとは異なります。ご注意ください。

阪神・淡路大震災や防災に関する資料の収集・保存・公開を行っています。

資料の閲覧

- 二次資料（図書やDVDなど）
資料室内に開架されており、自由にご覧頂けます。
- 一次資料（震災の実物資料）
資料室内の資料検索用コンピュータやインターネットで検索することができます。閲覧を希望される場合は、事前にご連絡ください。

検索ページ <http://lib.dri.ne.jp/search/>
※西館の北エレベータをご利用ください。

資料の貸出

原則行っておりません。ただし、映像資料や写真については、利用目的によって貸出できるものがあります。資料室へご相談ください。

レファレンス

震災や防災に関する資料について、ご相談に応じています。



河田文庫

2019年12月に開設。当センター長の学術研究に関する資料や成果を集約したライブラリーです。利用をご希望の方は資料室までお越しください。

1F ガイダンスルーム

〔震災・防災学習プログラム〕予約制

プログラム1

「語り部」による震災の体験談や心がけるべきこと等

プログラム2

センター研究員による防災セミナー
※小中学生対象、平日のみ



東館



3F BOSAI サイエンスフィールド 最新の防災知識と自然災害に備える力を養います

BOSAIサイエンスフィールドでは、幅広い世代の皆さんが、楽しみながら最新の防災知識を学び、自然災害に備える力を養うことができます。自然災害に遭遇したとき、自分や大切な人たちの命を守るため、どのような行動を取れば良いのか。さあ、このフィールドで、自分で考え、判断し、行動できる力を身に付けましょう。

①ディザスターウォール 自然災害ってなに？



地球上で起こる自然現象と人々の生活が変わることで自然災害が発生することを学びましょう。

②ジオ&スカイホール 災害はなぜ起きる？

自然現象のメカニズムを学び、それが自然災害とどのように結びつくのかを体験しましょう。



③ハザードVRポート その時、なにが起きる？

地震や津波、風水害の現場にあなたがいたら…360°広がるVR映像と音声で体験しましょう。



④ミッションルーム 実際に起きたらどうする？

リアルに再現された住居やコンビニで、自ら状況を判断して避難行動につなげるためのトレーニングを行いましょう。



⑤クエスチョンキューブ その行動、本当に最善？

災害時の様々な場面を体験できる映像空間でクイズに答え、命を守る最善の行動力を身につけましょう。



⑥ディスカバリーラウンジ これからどうする？

防災・減災に対する今後の取り組みや決意をメッセージとして残しましょう。



2F 多目的スペース

多目的スペースで、先進的な防災・減災の最新情報等を紹介しています。

2020年度に情報刷新した『伝える阪神・淡路大震災の教訓106ダイジェスト・グラフィックス』



1F こころのシアター

にげよう 大切な命をまもるために一語り 下野 紘 (声優)

災害を我が事として考える……。逃げることは、生きること……。

[上映時間約15分]



©NHKエンタープライズ

○ミュージアムショップ



○レストラン



● 災害対策専門職員の育成

■ 災害対策専門研修

地方公共団体の防災担当職員などを対象に「災害対策専門研修」を実施します。

- 【研修の特色】
- 阪神・淡路大震災等の教訓を踏まえた実践的な研修
 - 巨大災害対策に必要な事項を体系的に網羅



コース名	目 的	対 象
トップフォーラム	今後発生する大災害時に各地方公共団体のトップに求められる対応などについて、最新の研究成果や国の災害対策についての情報等を基にトップ自らが議論すること等を通じ、地方公共団体の危機管理のあり方を考える。	知事・市区町村長
マネジメントコース ベーシック	防災初任者が早期に災害対応できるようになることを目指し、阪神・淡路大震災等の経験を踏まえた各部門の災害対策のあり方など基礎的かつ実践的な事項について体系的に学習する。	地方公共団体における防災・危機管理担当部局の職員のうち経験年数の浅い者
マネジメントコース エキスパート	災害対応の具体的事例や演習などを通して、大規模災害発生時に各種の対応が同時並行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力を向上させる。	地方公共団体における防災・危機管理担当部局の職員
マネジメントコース アドバンスト	大規模災害発生時に政策的な判断を迫られる事項等について、過去の災害事例等から具体的に学び、地方公共団体のトップを補佐する者としての能力を向上させる。	地方公共団体における防災・危機管理担当部局の職員のうち将来も当該部局の幹部として期待される者

特設コース

テーマ・目的を絞り、災害対応の個別課題等に対する対応能力を向上させるための特設研修を年数回実施する。

● 災害対応の現地調査・支援

大規模災害が発生した場合、都道府県等からの要請に基づき豊富な災害対応の経験と実践的なノウハウを有するセンターの専門家等を被災地の災害対策本部等に派遣し、現状と課題を調査するとともに、今後の災害対応について助言等を行います。



支援チーム

- チームリーダー（センター長または副センター長等）
- センターの上級研究員等
- センターの研究員
- 連絡・調整要員
- その他必要な分野の専門家のネットワーク

専門的な助言等

- 災害対策本部等の運営支援
- 情報の収集・提供
- 意思決定の際の判断材料の提供 など

交流・ネットワーク

センターの機能をさらに強化するため「東館」には国際的な防災関係機関などが入居しています。

入居機関紹介

一般財団法人アジア防災センター(ADRC)

災害が多発するアジア地域における多国間防災協力を推進する機関として、1998年に設立。災害情報の収集・共有、人材育成、コミュニティ防災などの事業を進めている。

国際復興支援プラットフォーム(IRP)

第2回国連防災世界会議の成果として2005年設立。災害からの「よりよい復興」を促進するための国際的な協力の枠組として、日本政府、兵庫県及び国連・国際機関と連携し、災害復興の知見の集積・発信や復興支援ツールの開発、人材育成など、仙台防災枠組の推進に向けた事業を展開している。

国連防災機関(UNDRR)神戸事務所

UNDRR(本部ジュネーブ)の駐日事務所として2007年開設。UNDRRは兵庫行動枠組の後継枠組である仙台防災枠組2015-2030の実施推進、国際防災協力、防災・減災文化の構築を推進している。

国際連合人道問題調整事務所(OCHA)神戸事務所

世界各地で起こる自然災害や紛争等の際、各国政府や国際機関による緊急人道支援活動の調整を担う国連機関。2001年に開設されたその神戸事務所は、日本にある関連機関との連携強化を通じて、より効果的な国際人道支援を実現するために貢献している。同時に、国際人道問題に関する啓発活動にも取り組んでいる。

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)

アジア太平洋地域における地球変動に関する国際共同研究を推進していくため、政府間のネットワークとして1999年に設立。気候変動とそれに対する緩和策及び適応策や生物多様性などに関する研究活動の支援や開発途上国の科学的能力の開発、科学と政策の連携等、持続可能な開発目標(SGDs)の実現に向けた取り組みを行っている。

公益財団法人 国際エメックスセンター(EMECS)

第1回世界閉鎖性海域環境保全会議(エメックス会議)が神戸で開催されたのを契機に国際的組織として、1994年に設立。閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用を目指し、エメックス会議の開催や閉鎖性海域に関する調査研究、情報交流などの事業を行っている。

公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会

世界に比類のない景勝地であり、漁業資源の宝庫でもある国民共有の財産ともいべき瀬戸内海の環境保全のための活動を行っている。瀬戸内海の環境保全に関する思想の普及、意識の高揚、調査研究ならびに情報の収集・提供などに取り組んでいる。1977年設立。

公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)関西研究センター

アジア太平洋地域における持続可能な発展の実現に向けた実践的な政策研究を行う研究機関であるIGESの関西における拠点として2001年に開設。途上国における低炭素技術の移転促進と普及など、「ビジネスと環境」等をテーマとして研究活動を行っている。

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

阪神・淡路大震災の経験と教訓、20年以上に及ぶ復興の知見、さらには東日本大震災の課題を踏まえ、2017年に開設。兵庫ならではの特色を生かした実践的な教育・研究を実施することにより、減災復興学に基づき政策の現場化を担える専門性の高い人材育成に取り組んでいく。

兵庫県立大学 学際リーダー教育センター防災リーダー教育部門

防災教育研究センターを引き継ぎ、2024年度から「学際リーダー教育センター防災リーダー教育部門」として開設。学部生を対象に減災や復興に関する知識を深め、実践的な対応力を身に着ける防災教育(防災リーダー教育プログラム)を推進していく。

公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構

創造的復興や新たな地域づくりに先導的な役割を果たしてきた2つのシンクタンクを統合し、2006年に設立。阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題を明らかにし、「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」に関する様々な地域の課題や政策課題についての調査研究、成果の発信、政策提言を行っている。

国際防災・人道支援協議会(DRA)

神戸東部新都心(HAT神戸)を中心に立地し、国際的に活動している防災・人道支援関係機関をはじめ、健康、医療、環境など関連する機関(現在19機関)で構成する国際防災・人道支援協議会の事務局を人と防災未来センターが担当し、年1回のフォーラム開催など国際的な防災・人道支援活動を推進しています。



【参加機関】(五十音順)

- アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)
- アジア防災センター(ADRC)
- 神戸地方気象台
- 神戸赤十字病院
- 国際エメックスセンター(EMECS)
- 国際協力機構(JICA)関西国際センター
- 国際復興支援プラットフォーム(IRP)
- 国連防災機関(UNDRR)神戸事務所
- 国際連合人道問題調整事務所(OCHA)神戸事務所
- WHO健康開発総合研究センター
- 地球環境戦略研究機関(IGES)関西研究センター
- 日本赤十字社(JRCS)兵庫県支部
- 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター(DRI)
- 兵庫県国際交流協会(HIA)
- 兵庫県こころのケアセンター(HITS)
- 兵庫県災害医療センター(HEMC)
- 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
- ひょうご震災記念21世紀研究機構(Hem21)
- 防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター(E-Defense)

施設概要

項目	西館	東館
建物構造	鉄骨造(制震構造) 地上7階、地下1階、塔屋1階	鉄骨造(制震構造) 地上7階、地下1階、塔屋1階
展示ゾーン	1階~4階	1階~3階
建面積	1,887.80㎡	2,059.97㎡
延面積	8,557.69㎡	10,197.08㎡
開館	平成14年4月	平成15年4月
大規模展示改修	平成20年1月	令和3年6月

観覧案内

●開館時間

9:30～17:30(入館は16:30まで)

●休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は翌平日)
 年末年始
 ※ゴールデンウィーク(4月28日～5月5日)期間中は無休
 ※変更になる場合があります。くわしくはHPまで。

●入館料金

	大人	大学生	高校生以下
西館・東館	600(450)円	450(350)円	無料
東館のみ	300(200)円	200(150)円	

[障がい者]

	大人	大学生	[70歳以上の高齢者]
西館・東館	150(100)円	100(50)円	西館・東館 300(200)円
東館のみ	50(50)円	50(30)円	東館のみ 150(100)円

※()内は20名以上の団体料金
 ※毎月17日は、入館無料(17日が休館日の場合は、翌18日になります)

●観覧所要時間

1～2時間程度
 (見学内容により、所要時間が変わります。)

●観覧申込

- 20名以上の団体又は貸切バスをご利用の方は必ず観覧予約が必要です。
- 上映時刻が決まっているシアターに確実に入場したい時も事前に観覧予約をお願いします。
- 予約申込みは、6か月前の月の1日(詳しくはHP「予約開始日」をご確認願います。)午前10時から、Web申込。先着順で受付します。

●有料駐車場

	1時間まで	2時間まで	3時間まで	
観覧者	250円	400円	500円	以降30分ごとに200円
観覧者以外	400円	以降30分ごとに200円		

※駐車券を総合案内にご提示ください。
 ※レストランおよび無料ゾーンのみご利用の場合、駐車場は割引となりませんのでご注意ください。

●バス有料待機所(予約制)

観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

●レストラン&ミュージアムショップ

東館の1階南側にはレストラン(約60席)とミュージアムショップがあります。
 ※くわしくはHPでご確認ください。

●観覧に当たってのご注意とお願い

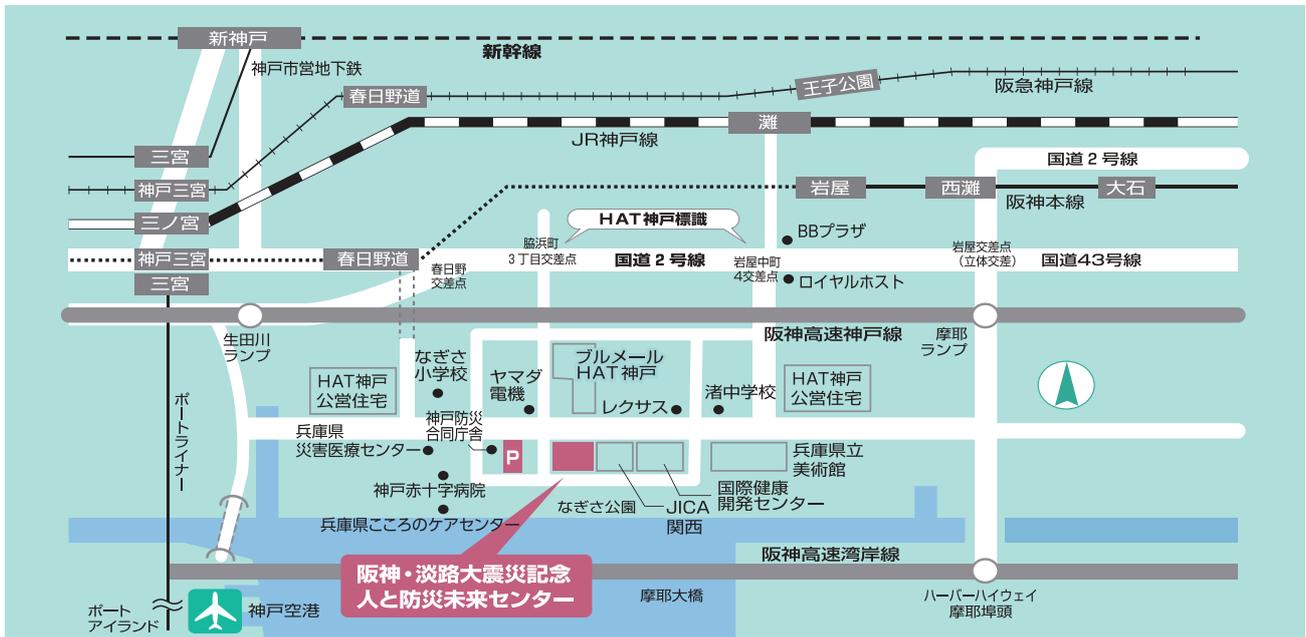
- 館内は禁煙です。
- 館内は一部写真等の撮影ができない場所がありますので、ご注意ください。
- 携帯電話での通話や、レストラン以外の場所での飲食はご遠慮ください。
- 酒気帯びの方など他のお客様に迷惑がかかる行為をされる方には、退館していただく場合があります。
- QRコードからご覧いただけます。



ホームページ



Instagram



●アクセス

鉄道

- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から南へ徒歩約10分
- JR「灘」駅南口から南へ徒歩約12分
- 阪急電鉄「王子公園」駅西口から南へ徒歩約20分

バス

- 阪神電鉄バス/JR「三ノ宮」駅前から「人と防災未来センター」までバスで約14分
- 神戸市営バス101系統/JR「三ノ宮」駅前から「HAT神戸行き・人と防災未来センター」までバスで約17分
- 神戸市営バス29系統/JR「三ノ宮」駅前からHAT神戸方面「人と防災未来センター」までバスで午前約24分(三宮→摩耶埠頭→HAT神戸)午後約15分(三宮→HAT神戸→摩耶埠頭)

車

- 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- 阪急・阪神「神戸三宮」駅・JR「三ノ宮」駅から約10分(国道2号線経由)
- JR新幹線「新神戸」駅から約15分

神戸空港

- ポートライナー「神戸空港駅」から「三宮駅」まで約18分、その後上記交通機関へ
- お車をご利用の場合…国道2号線経由で約20分

毎日、日没～20時まで月毎にテーマが
 変わるライトアップを行っています。



(9月テーマ 月夜)